

気軽に使ってほしい特別支援学校のセンター的機能

支援部主任 藤谷 淳一

本校に支援部（前：地域支援部）が設置されてから、16年目となりました。おかげ様で、今年度も200件以上の教育相談や訪問要請等がありました。

本校のセンター的機能の実施回数については次のとおりです。

項目	回数
① 教育相談支援（学校見学、体験学習等の受入含む）	77回
② 教育活動の支援（保育や学習等の支援、ケース会の実施等）	77回
③ 検査等の実施・報告 *教育専門監の実施も含む	70回
④ 教育専門監への相談・派遣 *5歳児健康相談等含む	46回
⑤ 障害理解の出前授業、学校紹介の展示会等の開催	11回
⑥ 地域の研修等への協力（すくすくネットワーク研修会等）	11回

特別支援学級の「PTA親子学習会」への協力、中学生対象の「障害理解の出前授業」、本校の授業参観と併せての「進路研修会」の開催など、新たな取り組みがありました。各園・校の研修ニーズに応じて、専門性のある職員を派遣しますので、学習会や研修会を計画する際にはぜひご相談ください。

また、今年度より横手市の“就学支援委員会専門検査員”の委嘱を受けました。就学に係る検査の実施や、特別支援学級に在籍する児童生徒と保護者の方との進路相談といった機会も多くありました。

訪問要請の中で一番多かったのが、「行動観察とケース会（協議）」です。一人のお子さんをじっくり観察する場合もありますし、多い時には40名のお子さんを複数の教員で観察することもありました。

お子さんの状態像や相談内容については、次の表のとおりです。 *重複有

状態像及び相談内容 等	幼稚園・保育所等	小・中学校
① 学習（言葉の遅れ、読み書き 等）に関する相談	49	28
② 行動面（多動、衝動性、こだわり等）に関する相談	90	45
③ 対人関係（遊べない、不安が強い等）に関する相談	31	11
④ 日常動作（食事、排泄、身支度等）に関する相談	37	0
⑤ 養育や家庭との連携に関する相談	16	6
⑥ その他（登校しぶり、疾病 等）に関する相談	9	14

圧倒的に行動問題への相談が多くありました。行動に問題をもつお子さんの多くは、青春ドラマのように、怒ったり泣いたりしながら関係を築いていくことが苦手な人たちなのだと思います。「興奮を収めるという対応をした後で、指導をしていく」というのが支援のセオリーですが…支援者に余裕がないと、適切な関わりができないことが多くあるのではないのでしょうか。

行動の問題をすぐに解決することは難しいのかもしれませんが、だから、励まし合ったり、「なぜ〇〇という行動を取るのか」といった理由を考えたりする仲間が必要なのだと思います。そんなチーム園・学校の輪の中に、横手支援学校も仲間に入れてもらえるとうれしいです。

4月には、また本校のセンター的機能の担当教員がご挨拶に伺うと思いますので、その際はよろしくお願いします。

1年間ありがとうございました。



センター的機能への質問等をQ&A形式にて紹介します

- Q 活動の流れを示してもうまくいきません。どうしたらいいですか。
- A 分かっている（嫌な）ことを指示的に示し反発されたり、活動のネタばらしをされることで活動意欲が下がったりするお子さんもいます。予定を示すのは、見通しのもちにくい場面や不安の強い子に対してです。
- Q 訪問の要請をお願いしたいと思っても忙しくてできないのが現状です。
- A 電話やメールでの相談も随時受け付けています。その際に教材の紹介や支援の提案をさせてもらうこともあります。一緒に授業に入る中で関わり方などを提案させてもらうこともあります。まずは気軽にお電話ください。
- Q 計画的に訪問を要請したいのですが、年間で回数は決まっていますか？
- A 訪問回数に限度はありません。特別支援教育の年間計画の中に、研修として訪問要請を計画的に位置付けている幼稚園・保育園もあります。また、次年度の準備として、春季休業中の相談等も受け付けています。



教育相談等の問い合わせ先

県立横手支援学校 (小・中学部) 教頭 近田 浩治 TEL0182-33-4166
高等学校特別支援隊事務局 (高等部) 教頭 松井 克彦 TEL0182-33-4167

*派遣依頼文は横手支援学校ホームページ(<http://www.yokote-s.akita-pref.ed.jp/>)からダウンロードできます。